

企業統治の正鵠

長島 繩 × 牛島 信  
(帝人相談役)

(弁護士、作家)

# 経済界

定価630円

平成27年9月23日発行・発売  
(隔週火曜日発行・発売)  
第50巻第20号(通巻1049号)  
昭和45年9月3日第3種郵便物認可

10.6  
2015 No.1049

経営のトップに立つ人にクローズアップ



亀井静香  
(衆議院議員)

Interview  
後藤芳光  
(福岡ソフトバンクホークス社長)

Special Interview

筒井義信

(生命保険協会長、日本生命保険社長)

特集①

## 一步先の介護

特集②

## 躍進する中部経済

NTPホールディングス/海帆  
矢場とん/さかい珈琲

写真=佐藤元樹



(しもがわら・ただみち) 1971年、東京都生まれ。92年より父親が経営する鉄鋼会社に勤務。薄鋼板による建築工法開発のため98年に渡米。帰国後2000年に「シルバーウッド」を設立。

溝にする耳の聴みとして 馬鹿子屋をつくり、小売りを始めました。入居者が順番に店番をすることで、周辺の子どもたちとの触れ合いの場となり、地域からも認められる場所となっていました。

その次ということです。サ高住は入居者が老後を過ごし、中には死を迎える住宅、ケアサービスが優先されるはずです。今回は「銀木犀」で実際に行っている取り組みをプレゼンしました。

—— その取り組みが評価されてのグランプリ受賞だと。

下河原 認知症ケアのために「公文式」の公文教育研究会と、ゲーム「脳を鍛える大人のDSトレーニング」を監修した東北大大学加齢医学研究所の川島隆太教授が共同開発した即時フィードバックによる前頭前野の活性

化を促す学習プログラムと、川島教授の指導による「ドラムサークル」は、介護現場で必要な高齢者とのコミュニケーションを高める効果があります。

—— その効果は。

**介護に必要なのは  
コミュニケーション**

下河原 「ドラムサークル」は真ん中で音頭をとるファシリテーターを囲んで、入居者と介護職員が交々に並んで一緒にドラ

ムを叩く簡単なもので。介護現場では、入居者と介護職員とのコミュニケーションがどれなりことで、さまざまな問題が起きています。「ドラムサークル」は、入居者と介護職員が一緒にドラムを叩き、楽しむことでお互いのコミュニケーションを円滑にするきっかけとなります。

— コミュニケーション重視の取り組みが受賞の理由ですねー

下河原 「日本より10年は遅れている」というのは、コミュニケーションの取り組みにあります。今年5月に東京都足立区にオー

—— 内と外とのコミュニケーションが、下河原 サ高住で、ついのすみ かや看取りを行う住宅はまだ多くはありません。見学の方に「ここで亡くなる方も多いですよ」と説明すると、安心する方も増えています。その背景には病院での点滴などでの延命治療を嫌がる傾向があると思います。

—— 看取りの取り組みも、サ高住でも大切な課題です。

下河原 亡くなる直前に病院に搬送され、そのまま亡くなられ

「サ高住だからできる  
コミュニケーションがある」

# INTERVIEW

## シルバーウッド社長

# 下河原忠道

今年4月、「第6回アジア太平  
高齢者アライノボ」(ソニー)

認められたのは施設ではなく、介護サービス

――受賞したアワードは、ア  
ジアの介護ビジネスの商談の場  
でもありますね。

「Facility of The Year 2015」を受賞した下河原忠道社長(一番左)